

GK情報レポート

【2022年発行】

vol. 68

秋号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail eigy@gondametal.co.jp

<https://gondametal.jp>

Contents

1. 高力黄銅・ネーバル黄銅棒の新サイズについて
2. 職場紹介 製造部 成形係
3. 相場情報

皆様でご回覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～67）を用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社


1. 高力黄銅・ネーバル黄銅棒の新サイズについて

当社では自社溶解工場にてピレットを鋳造する事により、在庫販売を行っている快削黄銅棒だけでなく、受注生産にて鍛造用黄銅棒(C3712、C3771)、高力黄銅棒(C6782)、ネーバル黄銅棒(C4622、C4641)を製造・販売しています。

これまで高力・ネーバル黄銅丸棒は115Φ以上の鍛造サイズのみ製造していましたが、昨年に新型ドローベンチを導入したことにより、新たに60Φ～80Φの圧延引抜サイズも製造可能となりました。

ドローベンチは材料を冷間引抜することで寸法精度や機械的特性などを整える設備です。新型は以前と比べて引抜能力が4倍になり、硬い高力黄銅やネーバル黄銅も高品質な製品をお届けできるようになりました。





高力黄銅は強度が高く熱間鍛造性、耐食性に優れています。また、ネーバル黄銅は耐海水性に優れています。

これらの特性を生かし、高力・ネーバル黄銅は古くから船舶用シャフトや、プロペラ・ポンプ軸などに使用されてきました。

日本は国土全体を海に囲まれ、天然資源の乏しさや食料自給率の低さから、海上輸送の需要はとて高い環境です。日本の貿易における海上輸送は9割以上を占めています。

しかしながら日本の造船業は、国営の中国の造船所や巨額の公的支援を受ける韓国の造船所の赤字覚悟のシェア獲得に押され、ここ10年以上斜陽の業界とまで言われていました。

ですが、日本にとって安定的な海上輸送の確保は社会経済の存立基盤であり、その公共性は高いものです。その為、産業基盤を維持・強化しつつ、GHG(温室効果ガス)排出削減といった社会環境的な要請にも応えられるように、2021年の国会で海事産業強化法が可決成立しました。

この法案の一つの柱として、供給側の造船業と需要側の海運業の双方に投資を促進するというのがあり、長期低利融資や税制特例措置などの金融支援を行います。

また、2020年の初頭から世界的流行が収まる気配を見せないコロナの影響による巣ごもり需要の増加もあり、ここ2年半ほどで全世界の海上輸送量は急激に増えています。

そういった海運市況の回復と海事産業強化法の成立が追い風になり、日本の造船・海上輸送量はここ1年ほど復調しています。

これにより、高力・ネーバル黄銅丸棒の需要も高まっていくことが予想されます。

今後益々海運市況が回復していく中で、当社も日本製の船舶の部品の一部として活用されるよう、積極的に営業展開していきたいと思っておりますので、まずはお気軽に当社営業員までお声掛け下さい。

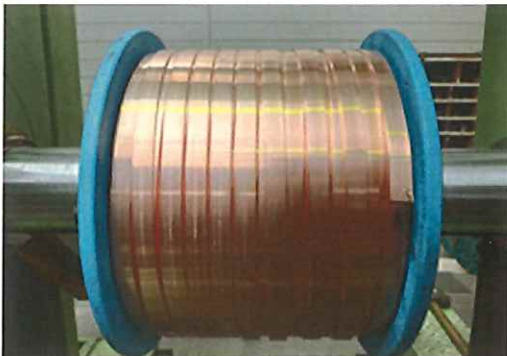
記者 権田・高橋

2.職場紹介 製造部 成形係

成形係では、銅荒引線を出発材料として断面積の小さい銅平角棒及び銅丸棒を製造しています。コンフォーム押出機を用いて熱間押出後に冷間引拔を行い寸法と調質の調整を行います。冷間引拔を行うため高い寸法精度を得ることができます。引抜後に矯正を行い定尺切断した後、検査・出荷となります。

コンフォーム押出製品には、連続した長物の製作が可能という特長があります。通常の出荷ではビレットによる材料重量の制限がありますが、コンフォーム押出はコイル状の材料を連続的に投入することで制限なく効率的に製造ができます。

現在、従来の定尺切断品のみならず、ボビンに巻いた荷姿での検討を進めております。多様な荷姿で出荷できるようにすることに加えて製品サイズの拡大をおこない、更なる需要拡大を計っております。



成形係では各機械に1人の担当作業員が従事しており、押出・引抜に品質を左右するダイスの研磨作業担当の作業員もおり、表面状態の維持にも努めています。

コンパクトな工場で長尺の材料を最終工程まで製造できるため、作業員同士の意思の疎通も取りやすく、急な工程変更にも柔軟に対応することができます。

成形係では、初工程のコンフォーム押出機の稼働前の設定から最終工程の矯正・切断まで、経験豊かな作業員とフレッシュな作業員がコミュニケーションを図りながらお客様に満足していただけるような製品の製造に日々務めております。

記者 成形係 早川



3.相場情報

1. 電気銅建値推移

2022年6月・・・1,270円スタート（6月平均1,270.0円）

2022年7月・・・1,170円スタート（7月平均1,085.5円）

2022年8月・・・1,110円スタート（8月平均1,129.5円）

2022年9月・・・1,140円スタート

2. LME 在庫状況及び需給状況


今年前半は、2月のロシアのウクライナ侵攻、3月に欧米の相次ぐ金利引き上げと金融引き締め、新型コロナウイルス禍では、3月末から中国上海市でロックダウン、日本では7月から第7波が到来と商品相場に影響を与える事象が多く発生した。

銅の国際相場は、ウクライナ侵攻後多くの資源価格が高騰し3月上旬にLMEで10,700ドル超の史上最高値を付けた。その後、欧米でインフレ退治を優先する形で金利を想定より速く引き上げた事により景気後退懸念に備え商品市場から相当な資金が抜けた。又、中国の上海ロックダウン解除後も都市部から郊外にコロナ感染が拡大しているのとこれ迄中国経済を牽引していた不動産投資が不良債権問題から低迷している。

これらの世界的な景気懸念から7月前半には7,200ドルまで下落した。

LME指定在庫状況は、年初の8万3千トンと歴史的な低水準であったが、8月には12万トンまで回復した。

これは、世界の銅消費の6割を占める中国がロックダウンの影響で消費量が減少しているのと欧米で金利上昇から住宅着工の減少や自動車業界では半導体不足による生産調整の動きが見られ、在庫量増加の要因となった。



2022年の銅地金生産は、新規操業を開始予定の鉱山プロジェクトもあり、前年比1.2%増の2,457万トン。消費は0.2%の微増で2,437万トンとなり、需給バランスは約20万トンの供給過剰との見込みである。

3. 為替の見通し

2022年3月からFRB（米連邦準備制度理事会）がインフレ抑制の為、金利の引き上げに踏み切ったことからドル高が進んだ。その後、この副作用から景気減速が顕在化し市場で金利引き上げの緩和が期待されたが、8/26 ジャクソンホール会議でパウエルFRB議長からインフレ率を2%迄抑え込む為に金利引き上げを継続するタカ派発言があった。

一方日本銀行は従来の低金利政策を変えず日米の金利格差が開き1998年8月以来24年振りに140円/ドルを超えた円安が進んだ。

9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）での利上げ予想が強まりドルの上昇圧力が高まると見ており145円/ドル迄下落するのではとの予測も有る。

4. 今後の見通し

今後は、2050年のカーボンニュートラルを目指し、再生エネルギーや電気自動車普及を各国が推進し特に欧州は脱ロシアも重なり脱炭素計画を前倒しする予想。これにより銅需要は堅調に推移して行くと思われる。

現状の銅鉱山の採掘採算ラインは7,000ドル程度だ。この水準が下値として意識され、年末まで7,000～8,000ドル程度の狭いレンジ動くのではないかと予想される。

短期予測(1M) LME \$ 7,000~8,000/ t 為替 137~148 円/\$
 銅建値 1,100~1,200 円/kg

長期予測(3M) LME \$ 7,000~9,000/ t 為替 135~150 円/\$
 銅建値 1,050~1,250 円/kg

記者 宮本

